

NFAアクションプラン2022→2026	全体3頁中の1頁
1. 現状の概要と今後の方向性	上越地区協会 委員会 連盟
<p>1. 普及 上越、妙高、糸魚川、柿崎の各サッカー協会において、各種のカテゴリーで大会や事業を開催し、サッカーの普及に努めている。また、中体連・高体連等の組織において各大会や事業を行っている。</p> <p>2. 強化・育成（選手、チーム、指導者、審判） 各種チームにおいては、まだまだ県大会で優勝するには遠いのが現状であり、また、県代表の選手を輩出することも少ないのが現状であり、指導者や審判についても慢性的な人数不足が、問題である。</p> <p>3. 基盤（組織、人材、財政、施設） 各協会において、少子化による選手やチーム数の減少や スタッフの高齢化等の問題があり、それを乗り越える努力をしているが、なかなか解決できない。その問題点を解決できないことから財政的にもきびしくなり、施設の改善もままならない。</p> <p>4. 運営（事業運営、大会運営） 現状は、各協会独自の大会や事業運営を行っているが、今後は各協会での独自性をもたせつつ、大会参加だけではなく密接な連絡・連携を取り合うことが大事であると考えます。</p> <p>これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい</p>	

NFAアクションプラン2022→2026	全体 頁中の 頁
2. 中期目標（2030年）	上越地区協会 委員会 連盟
<p>○各カテゴリーの新潟県大会で常時ベスト4以上の成績をあげる。</p> <p>○各カテゴリーの登録人数を2022年の人数より1割増をめざす。</p> <p>○2022年に要望している施設の整備が完了している。</p> <p>○上越地区から社会人北信越地域リーグへ参加するチームを輩出する。</p> <p>○年間を通して、幼児から小学生低学年までのフェスティバルを行いチーム数が集まればリーグ戦を行う。</p> <p>○女子選手への普及に努めフェスティバルやリーグ戦を行う。</p> <p>○指導者講習会や審判講習会を随時開催し、指導力やルール理解の向上を図る。</p> <p>○新規大会や新規事業を活発に行い、サッカー文化の浸透をはかる。</p>	

NFAアクションプラン2022→2026	全体 頁中の 頁
3. 長期目標（2050年）	上越地区協会 委員会 連盟
<p>○上越地区から各カテゴリーで常時全国大会へ出場できるチームをつくる。</p> <p>○J1、J2、JFLへ参加できるようなチームを輩出する。</p> <p>○スタンドつきの全国大会が開催できるようなサッカースタジアムをつくる。</p> <p>○日本代表選手を上越地区から輩出する。</p> <p>○2022年の各種別チーム数、登録者数より1割増をめざす。</p>	

NFAアクションプラン2022→2026					全体3頁中の2頁
4. 現状分析					上越地区協会 委員会 連盟
No. と 事項	2026年具体的目標	2022年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1. 普及	各カテゴリーの登録人数を2022年の人数と同レベルで保持する。	2018年当時より、少子化の進行及び人口流出により減少が止まらない。	20%	子供の絶対数が少ないことが、まず問題であり進学を機に他地区または他県へ流出している傾向がみられる。	幼稚園や小学校低学年の世代からアプローチをしっかりと行うことを各協会において行いつつあり、もっと大きな波を作りたい。
2. 強化・育成 (選手・チーム・指導者・審判)	各カテゴリーの県大会で常時ベスト4以上の成績をあげる。	常時良い成績というのは、叶わず、数年に一度というのが現状である。	30%	底辺から若年層の選手を強化し指導者も高いレベルにしていくことが大事と考える。	もっと他地区・他県との交流を増やしつつ、地区全体のレベルを上げていく。
	上越地区から社会人北信越リーグへ参加するチームを輩出する。	育成選手の他県他地区への流出があり、選手の確保に悩みがある。	20%	学校等の受け皿作り、行政との施設新設等の環境整備を含めて強化・育成を進めたい。	市内中央部の私立高校が、サッカー部強化に乗り出し設備等の環境整備を始めた。そういったことから少しずつ広めていきたい。
	指導者や審判の講習会を随時開催し、指導力やルール理解の向上を図る。	指導者も審判も高齢化が進み慢性的な人材不足である。	10%	審判も指導者も絶対数を増やすとともに資質を上げる講習会は、必須である。	選手と同レベルにとらえて地区全体でサポート体制を整える。
3. 基盤 (組織、人材、財政、施設)	上越地区中心部でのサッカー施設の建設が完了している。	計画が存在する中で、一歩前進ができていない。	0%	市の財政面からの理由により本格的な動きがない。	地区協会と市協会も含めて強い要請をかけ続ける。市民の盛り上げをつくる。
4. 運営 (事業運営、大会運営)	新規大会や新規事業をより活発に行いサッカー文化のより深い浸透を図る。	拠点となる施設がないためなかなか新規の動きがない。	30%	アイデアや企画を見直し地区全体で検討しあう。	視点を変えて、アプローチをすることや、他地区での活動を参考にする。
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2026年目標に向けての2022年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

5. 具体的アクション

委員会
連盟
上越地区協会

No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1	地区協会が	2026年までに	上越地区内で	キッズ世代が参加できる 大会や事業を	各地区年1回は、 開催する。
	地区協会が	2026年までに	上越地区内で	だれでも参加できる イベントを	各協会持ち回りで 開催する。
2	地区協会が	2026年までに	上越地区内で	強化につながる大会を	新しい施設で開催する。
	地区協会が	2026年までに	上越地区内で	審判の派遣サポート体制を (サッカー・フットサル共)	構築して運営する。
3	地区協会が	2026年までに	上越地区内で	行政に(市長や議会等に)	直接働きかける。
4	地区協会が	2026年までに	上越地区内で	サッカーに関する ネットワーク作りを	構築して発信する。

↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です